

【本例がよく当てはまる差止対象品】

品名・型番表示は無いが、特徴的な外観で区別できる。かつ真正商品のコピー商品である。

※本資料は記載方法の一例です。詳しくは税関にお問い合わせください。

添付資料4

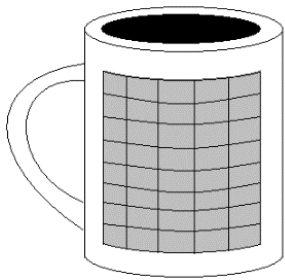
識別ポイントに係る資料（イ号）

1. イ号の特徴と確認方法

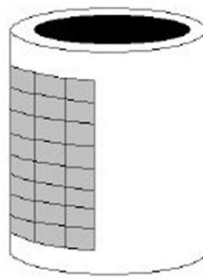
（1）イ号の特徴

イ号は、以下の外観のマグカップである。

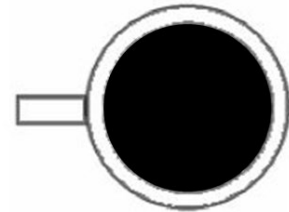
ただし、色の差異は問わない。



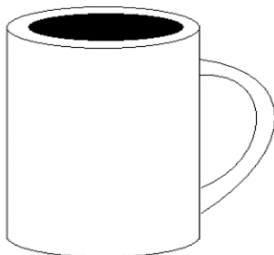
正面写真



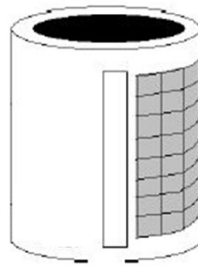
右側面写真



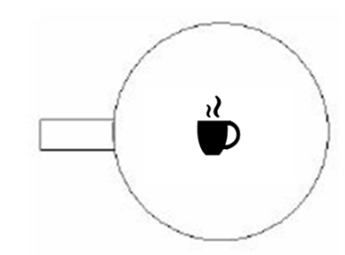
上面写真



背面写真



左側面写真



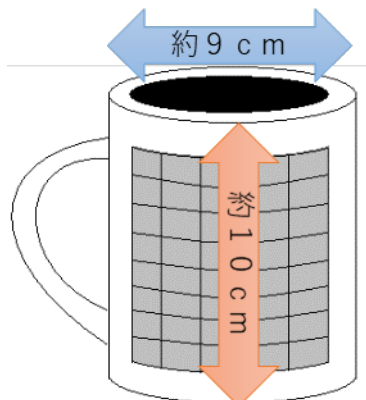
底面写真

(2) 外観確認時のポイント

(1)の外観上の特徴の確認に当たっては、特に以下のポイントに留意する。

【サイズ】

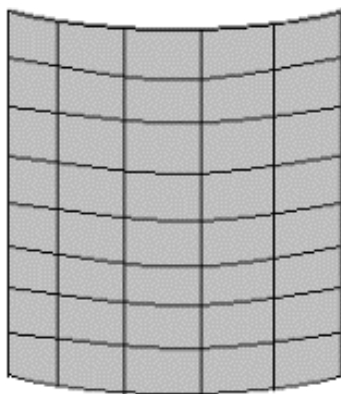
イ号は、高さが約10 cm、直径が約9 cmである。



【模様】

カップ正面に付された模様は、横5マス×縦8マスの格子柄である。

写真の色は一例であり、色の差異は問わない。



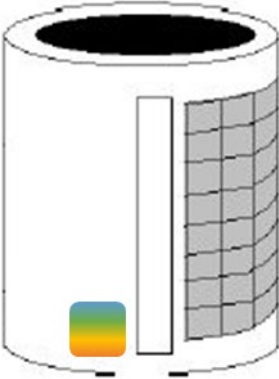



【マーク】

底面に付されたマークは、以下のようにカップを模したものである。



2. 真正商品（権利者製品）と侵害品との判別方法

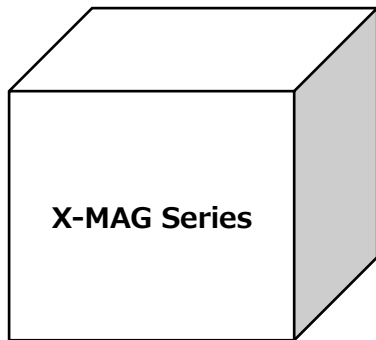
以下に示した真正商品の特徴のいずれかを欠くものは侵害品である。

真正商品	侵害品
<p>①識別シール</p> <p>持ち手の下部の付根近くに、真正商品であることを示すホログラムシールが貼付けられている。</p>  <p>ホログラムシールは見る角度によってマグカップのマークが現れる。</p> 	<p>ホログラムシールが貼り付けられていないものや異なるシールが貼り付けられているものは侵害品である。</p>
<p>②底面部のマーク</p> <p>カップ本体と持ち手の間に隙間がある。</p> 	<p>カップ本体と持ち手の間に隙間が無いものは侵害品である。</p> 

3. 参考

(1) 侵害品の外装

イ号は、以下の外観の紙製箱に入って流通することが確認されている。



「識別ポイントに係る資料」作成上の留意点

○識別ポイントは、税関が侵害疑義物品を発見するための参考となるポイントです。

○真正品又は侵害物品に特有の表示、形状、包装等の真正商品と侵害物品を識別するポイントや方法を記載してください。権利の内容と直接関係しない事項でも構いません。

○記載にあたっては、

- ・真正品又は侵害物品の全体が分かるようにしてください。
- ・識別のポイントとなる箇所の全体から見た位置が分かるようにしてください。
- ・可能な限り、鮮明な画像としてください。